

帯大谷短大 若者アンケート

電信通りに
たまり場を

1クアウト型の菓子店3店で合わせて80%を占めた。

自由記述では「若者をひきつけるのに大事なのはカフェなど集まって話ができる場所」「気軽に立ち寄れて、ゆっくりできるお店があったらいい」など、高校生を中心に放課後に時間を過ごせる場所を求める意見が多かった。

一方「商店街は閉鎖的というイメージ」「(建物が)古いお店が多いと質や味以前に近寄りづらい」など、親しみにくいとの指摘も目立った。

津久井副学長は「若者を呼び込むには、ニーズをとらえた商品や店づくりが必要。外から見える、入りやすい雰囲気のお店づくりなどが課題になる」と指摘。同商店街振興組合の長谷部理事は「耳の痛い内容もあったが、若者も含め広い世代が過ごしやすいスペースづくりを検討したい」としている。

第3種郵便物認可

商店街振興は「スイーツ」「たまり場」がキーワード。帯大谷短大(田中厚一学長)が帯大谷電信通り商店街について、若者を対象に行った調査によると、同商店街で買い物経験の若者の大半が菓子店の利用が少なく、気軽に時間を過ごせる場を求める声が多かった。同商店街は、結果を踏まえて今後の振興策に生かす考えだ。(原田隆幸)

100年以上の歴史を持つ同商店街は、若者の意識を調べて空き店舗対策につなげようと、同短大に調査を依頼した。津久井副学長ら4人の教員が中心となり、昨年10、11月に同短大の学生と、商店街近くにある帯広柏葉高の生徒にアンケートを

実施。短大生197人、高校生783人の計980人が回答した。同商店街について「買い物をしたことがある」のは高校生32%、短大生36%にとどまった。買い物をしたところのある店としては、高橋まんじゅう屋などテ

気軽にスイーツ ゆったりと